「赤旗」宣伝スポット

２０２３年１月

こんにちは。日本共産党です。きょうは、「しんぶん赤旗」のお勧めにまいりました。確かな情報、真実を伝え、希望を運ぶ「しんぶん赤旗」です。日刊紙は、１カ月３４９７円。スマホで読める電子版もあります。週刊の「しんぶん赤旗」日曜版は、１カ月９３０円です。

●「新しい戦前になりそうだ」――こんな不安が広がっています。「専守防衛」を投げ捨て、他国を攻撃する兵器を爆買い。岸田軍拡は、本当に異常、きわめて危険です。日本を、再び「戦争する国」にしてはなりません。憲法９条を生かした平和外交こそ大切です。「しんぶん赤旗」は、平和と暮らしを壊す大軍拡・大増税に反対し、平和の対案を示しています。ぜひ、お読みください。

●コロナ感染第８波で、亡くなる方が急激に増えています。国民への正確な情報発信、病床確保、発熱外来、高齢者施設への支援強化が必要です。無為無策の岸田政権は、感染症対策に逆行する病院統廃合やベッド削減まですすめようとしています。いのちを守る政治をつくるため、「しんぶん赤旗」を、ぜひ、お読みください。

●賃金が上がらず、経済が低迷しているところに物価高騰で、暮らしが大変です。物価高騰に無策、大増税まで狙う岸田政権では、国民の暮らしも日本経済も成り立ちません。日本共産党は、大企業の内部留保に適切に課税して賃上げに活用、消費税の緊急減税、中小企業、農林漁業支援など、暮らしと経済を守る具体策を提案しています。暮らしを守る「しんぶん赤旗」を、ぜひ、お読みください。

※確かな情報、真実を伝え、希望を運ぶ「しんぶん赤旗」の日刊紙は、１カ月３４９７円。スマホで読める電子版もあります。週刊の「しんぶん赤旗」日曜版は、１カ月９３０円です。

●「専守防衛」を投げ捨て、他国に脅威を与える世界第３位の軍事大国へ。岸田政権は、国民にも、国会にもはからず、日本の安全保障政策を大転換しました。主権者である国民を無視する岸田内閣を退陣させ、解散・総選挙で厳しい審判を下しましょう。国民の願いが生きる政治の実現へ、「しんぶん赤旗」を、ぜひ、お読みください。

**●**ロシアは侵略をやめて撤退せよ、国際法を守れ、核兵器の脅しは許さない――この声を、大きくしていきましょう。紛争の平和的解決を定めた国連憲章を守れと、世界が一致して声をあげ、行動することが、ロシアによる侵略をやめさせる力です。反戦・平和を貫く「しんぶん赤旗」を、ぜひ、お読みください。

●気候危機の打開へ、原発や石炭火力発電をやめて、再生可能エネルギーに切り替えるのが、世界の流れです。ところが岸田政権は、老朽原発の稼働延長、原発新増設など、原発推進に、１８０度方針転換しました。原発事故の重大さと、被災者の苦しみに背をむける態度であり、許せません。「原発ゼロ」・脱炭素をめざす「しんぶん赤旗」を、ぜひ、お読みください。

※くり返し

●男女の賃金格差の是正、選択的夫婦別姓の実現や性暴力の根絶など、誰もが尊厳をもって生きられるジェンダー平等社会をめざす運動が、大きく広がっています。「しんぶん赤旗」は、女性解放、ジェンダー平等のために奮闘してきた人びとに連帯し、日本の社会と政治の歪みをただすために全力をあげています。ぜひ、お読みください。

●囲碁・将棋の「新人王戦」は、「しんぶん赤旗」が主催するプロ棋戦で、一流棋士への登竜門として注目されています。囲碁の芝野虎丸名人は、２０１７年の新人王、将棋の藤井聡太五冠は、２０１８年の新人王です。「赤旗」日刊紙は、新人王戦の熱戦譜を毎日掲載。日曜版でも、プロ棋士の解説をつけて毎週紹介しています。ぜひ、お読みください。

●日本共産党は、１９２２年の創立以来、１００年を超す歴史を刻んでいます。反戦平和、国民が主人公の日本をめざし、戦前・戦後、不屈にたたかってきました。岸田政権の大軍拡・大増税と正面から対決し、戦争の心配のないアジアをつくるために力をつくします。市民と野党の共闘を再構築し、憲法の理念が生きる新しい政治をつくります。希望ある未来を開く「しんぶん赤旗」を、ぜひ、お読みください。

※くり返し